

概 要 報 告

実施期日	令和8年8月5日(水)
部 会 名	小学校 音楽部会

研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善

テーマ

『思いを意図につなげる授業デザイン

～「やってみたい!」「わかった!」「できた!」を感じられる器楽演奏～』

提案概要

- ・6年生 題材「愛を込めて花束を」(児童による選曲／2月の音楽集会に向けた取組)
- ・歌唱活動で「思いや意図」をもつ表現のよさを実感してきた一方、器楽演奏では、「楽譜を読むこと」や「演奏技能」に不安・困難を感じる児童の存在が明らかとなった。
- ・「音楽集会で伝えたい思い」と音楽を形づくっている要素とを結びつけ、表現する力の育成を図る。

<実践内容>

器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつようにする。

<具体的な手立て> (全11時間計画)

前半・①曲想を捉える。ミュージックビデオ鑑賞。旋律の歌唱活動。振り返りは学習支援アプリケーションに打ち込み、その後、ポートフォリオ形式で振り返りやすくする。キーワードの可視化。

②旋律・伴奏・リズム体験をする。役割のバランスの大切さに気付く。

③・④難易度別のリコーダーの楽譜を使って主旋律を捉える。

難易度を可視化し、児童が選ぶことができる楽譜を提示。

後半・「思いや意図」をつなげる実践

道徳の実践 イメージマップを使い、誰にどんな思いを伝えたいかを考える。

⑤～⑥は、「伝えたい思い」を「音楽的な意図」につなげるために、「思い→カード」を活用し、思いと音楽を形づくっている要素との結び付けを図り、めあてをもち、練習に取り組む。

※自然と協働の学びにつながった。

⑦～⑨は、全体合奏。パートごとのめあてを共有し練習。全体練習。振り返りの紹介。

※見合い・教え合い活動を通し、思いを一つにして練習する姿が見られた。

⑩保護者向け演奏会(保護者からの感想・フィードバック)

⑪音楽集会

<成果と課題>

○「伝えたい思い」を表現するために「音楽的な意図」とつながったことで、結果、技能の向上につながることができた。アンケートより、思考については94%、技能については70%できたが、技能に関しては、まだ不安に思っている児童がいることが分かった。

○主体的な対話が、音楽的な表現を深める学びにつながった。

○保護者等からのフィードバックが、振り返りの質を高めた。

○ICTの活用は、必要な児童には効果があったが、児童の成長や実態を考え、児童一人一人の必要感に寄り添った支援へと見直していく必要がある。

○主体的に学ぶために、学校全体を通して「目標の設定」や「学習の見通し」、「振り返り」の一連の過程を児童自身が担う経験を積み重ねていく必要がある。

質疑応答

- ・教材との出会わせ方はどのようにしているか。
→他教科(総合的な学習の時間における地域のお囃子活動等)と関連させ、意欲を高めている。

協議の柱及び協議概要

○思いや意図をもったり、創意工夫をしたりして、表現につなげる手立て

○キーワード ・主体的な学び ・協働的な学び ・音楽を形づくっている要素

- ・合唱、パート練習でパートごとに思いや意図、表現の工夫を拡大楽譜に書き込んで可視化・共有できるようにし、クラス全体でも表現を考える。
- ・ペア学習を通して、互いに聴き合いアドバイスし合うことを大切にする。
- ・児童の五感を大切にしながら、音楽を形づくっている要素を感じ取ったり捉えたりする「知覚」と「感受」の往還が自然と生まれるような環境づくりを行う。
- ・音の響きの違いを楽しんで感じられるようにする。
- ・歌詞の意味や表現したい思いを、イメージマップ・色・絵・言葉などによって視覚的に可視化する。
- ・強弱記号や表現記号は、作者からのメッセージと伝え、その意図を考える活動を取り入れる。
- ・学年音楽の授業を通して、児童・生徒同士が交流する機会を設定する。
- ・比較して違いに気付かせる。音のつながりを聴いて、自分で実践してみたり、楽譜から分かる音のつながりを線で結んでみたりする。
- ・様々な模範演奏を聴いて、その演奏に対し、児童・生徒が評価する。
- ・児童・生徒に問いかけることで、「気付き→思い→意図→活動・演奏の変化」へとつなげる。
- ・知っている身近な曲を取り入れることで、自分で楽器を調べたり試奏したりする姿につなげる。
- ・楽しさを積み重ね、音楽を楽しむ姿勢そのものを大切にする。
- ・地区音楽会や卒業式で、伝えたい思いを意識する。
- ・一人一人異なる表現方法が出せる雰囲気をつくり、「どのような思いでその表現を選んだか」を話しやすくする。
- ・ICT機器の録画機能や録音機能を活用し、視覚的な支援を行うとともに、グループ活動での主体的な対話や練習の円滑化を図る。
- ・発表会などの機会を活用して意欲を高める。
- ・〔共通事項〕である「拍、フレーズ、曲の構成」などを取り入れた、遊ぶ感覚でのアプローチからなる活動を通して、音づくり等に生かす。
- ・低学年から「思い」をもつ体験を蓄積する。

まとめ概要

今回の教育課程の発表の協議の柱は、小中共に「思いや意図をもったり、創意工夫をしたりして表現につながる手立て」であった。そのため、協議会は、小中合同のワールドカフェ形式で行われた。各グループでの話し合いは、コメントを書いた付箋を模造紙に貼りながらの活発な意見交換となった。各学年における具体的な取組案をはじめ、音楽を楽しみながら表現する工夫や、苦手意識をもつ児童・生徒への支援方法などについて、校種を越えた深まりのある協議が展開された。

小学校の提案では、思いや意図をどのように結び付け、さらに演奏技能を高めていくかがポイントとなった。身近な音楽集会に向けた取組において児童自身が選曲を行ったことは、意欲を高めるよい題材設定となった。また、思いと意図を結びつけるために、特別の教科「道徳」で「誰に何を伝えたいか。」などを明確にしたことや伝えたい思いを表現につなげるために、「思いの言語化」と「音楽を形づくっている要素の結び付け」を行ったことにより、児童同士が主体的・協働的に取り組む姿が見られた。たくさんの掲示物や児童の「思い→音カード」からもそのことが十分に伝わる発表となった。

今回の発表と協議会は、今後の研究主題の深い学びにつながる発表となった。